



★事例集の詳細は下記ホームページをご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1296809.htm



●跡地の活用事例について

群馬県みどり市 旧福岡西小学校

社会教育施設として活用

みどり市多世代交流館

施設の基本情報

建築年度	1973 (昭和48) 年度
活用開始年度	2019 (令和元) 年度
現在の施設名	みどり市多世代交流館
活用事業者名	みどり市 (転用)
改修費用	総額約1億6,700万円 (自治体負担)
活用した補助金 等の名称	なし
施設の規模	2,428㎡



施設の概要

多世代交流館は、市民の生涯学習、市民や子育て親子の交流等を推進することを目的として、活動室や多目的ホール、和室、調理実習室など18部屋と体育館や多目的広場を備えた施設である。子育て応援施設（子育てを支援する様々な活動をはじめ、子育て親子の交流等を促進する拠点となる施設）としての特徴も持っている。

廃校活用までの経緯

福岡西小学校が2012（平成24）年3月をもって閉校となることを受け、2011（平成23）年11月に学校跡地活用検討プロジェクト会議が市役所内に発足し、防災拠点としての活用も視野に、跡地の利活用方法について検討していくことを決定した。その後、具体的に検討や活用を推進するため、2013（平成25）年11月に同会議はアクションチームに移行し、公民館や子育て支援施設、防災拠点としての活用を決定した。利用者のニーズに合った様々な部屋を配置することで、訪れた市民が自分のコミュニティだけでなく、館内の他分野のコミュニティにも参加でき、世代を超えた交流が可能となる施設を目指した。



Before After



廃校活用のメリット・効果

廃校を活用するメリットとして、既存教室を生かした活動室や調理室、教室と教室との壁を取り払った多目的ホールなどを確保することが可能になる点が挙げられ、講座やサークル活動など多くの市民のコミュニティ拠点として利用者が増加している。また、校庭はスポーツや子供たちの遊び場など多目的に使用でき、グラウンドゴルフ大会等の大きな行事も地域主導で行われている。さらに市の指定避難場所にもなっており、地域の防災拠点として活用されるなど、世代を超えた市民の交流の場としての活用が図られていると感じている。

活用開始までの課題・苦労したこと

学校から不特定多数の利用が見込まれる公民館・集会所へと機能を変えるため、関係法令上の課題（建築基準法や消防法等）を解決することに苦労した。特に、用途変更にあたり現在の法令に合わせるため、学校建設における不適合箇所等の改修が必要になったことや、建築確認申請にあたり建設当時の検査を受けておらず建築基準法適合状況調査を行わなければならなかったことで、かなりの時間を要した。

また、消防法により電気配線等は耐火耐熱保護配線であれば基準に満たないことや、自動火災報知器について体育館から校舎の受信機につながっているはずの非常ベルの配線が断線していることが判明したため、配線自体をやり直す必要があり、これらは追加工事により解決した。

●跡地の活用事例について

鹿^{みなみ}児^し島^{かさ}県^さ南^ささ^ちつま^{ょう}市^{しょう}笠^が沙^う町^{こう} 旧笠沙小学校

市役所出張所、診療所等の複合施設として活用

笠沙地区総合センター「よいどこい」

施設の基本情報

建築年度	1974 (昭和49) 年度
活用開始年度	2015 (平成27) 年度
現在の施設名	笠沙地区総合センター「よいどこい」
活用事業者名	南さつま市 (転用)
改修費用	総額約2億3,100万円 (うち自治体負担額: 約1.8億円) (うち補助金額: 約5,100万円)
活用した補助金等の名称	へき地診療所施設整備事業 (厚生労働省) 半島特定元気おこし事業 (鹿児島県)
施設の規模	699.27㎡



施設の概要

本施設は、2013 (平成25) 年度に閉校となった旧笠沙小学校に、南さつま市の公共施設である野間池診療所・医師住宅、野間池出張所、笠沙地区公民館、避難所、野間池分団消防詰所及び車庫の用途をまとめて整備した複合施設である。「よいどこい」とは鹿児島弁で「拠り所」を意味する。

廃校活用までの経緯

学校再編により笠沙小学校が閉校となることに伴い、地区民共通の財産である廃校を有効に活用するための検討を開始した。元々、野間池診療所・出張所の建物の老朽化や、地元消防詰所・車庫の整備等が課題となっていたこともあり、廃校活用を契機として、そうした機能を併せもった多目的施設を整備してほしいとの要望が地域から挙がっていた。特に、野間池診療所については、過疎高齢化が進む中で地域の中核的医療施設として通院患者も多く、施設存続を望む声が根強かった。このような状況の中、井戸端会議が地元で開催されたのをきっかけに、診療所・医師住宅をはじめ、出張所、地区公民館、避難所、消防詰所・車庫施設を兼ね備えた多目的施設の整備が構想された。



もともと旧小学校の校舎は平屋建てだったが、「よいどこい」開設にあたり、2階部分を増築。

廃校活用のメリット・効果

地域の中で一番賑やかな場所だった小学校から子供たちの声が消え、思い出のある校舎もほぼ無くなり、地域住民も寂しく思っていたが、そこに診療所や出張所・地区公民館等が建設され、グラウンドも全面芝生に変わったことで、地域住民がグラウンドゴルフをしたり調理室で郷土料理を作ったりと、憩いの場所として生まれ変わったことに対する喜びの声が多く上がっている。学校は地域のシンボルでもあり、廃校活用により地域の歴史を残すことで、卒業生や地域住民の地域への愛着等の醸成につながるとともに、地域に密着した事業展開も可能になると考えている。

また、多機能的な複合施設となったことで、地域の利用者の利便性も図られている。

活用開始までの課題・苦労したこと

廃校活用にあたっては、各区内8自治会において、総会及び臨時総会が随時開催され協議を深めることで地域の同意を得ることができた。地元の最高意思決定機関である振興協議会内に学校跡地利用検討会、同作業部会が組織され、基本設計に基づき意見集約を行った。

また、地域住民等にとって使い勝手の良い複合施設とすることを目指したが、予算の制限等も多々あり、実際に使ってみて初めて分かった点や改善が必要になった点などいくつか課題も出てきた。例えば、旧診療所は老朽化が著しく改築の必要性があり、早急に対応を進めなければならぬ状況であったため、今回の施設整備については地域住民も大賛成であったが、立地場所が変わることで旧診療所に近かった住民からは「不便になった」との声も出た。そのため、施設入口に周遊バスのバス停を設けることで施設利用者の移動手段を確保した。

●跡地の活用事例について

す おうおしまちょう わ だ しょうがっこう
山口県周防大島町 旧和田小学校

サテライトオフィスとして活用

(株)ビジコム 周防大島サテライトオフィス

施設の基本情報

建築年度	1995 (平成7) 年度
活用開始年度	2016 (平成28) 年度
現在の施設名	(株)ビジコム 周防大島サテライトオフィス
活用事業者名	(株)ビジコム (無償貸与)
改修費用	総額約4,652万円 (うち自治体負担額: 約1,931万円) (うち事業者負担額: 約1,721万円) (うち補助金額: 約1,000万円)
活用した補助金 等の名称	ビジネス環境整備支援事業 補助金 (山口県)、 サテライトオフィス誘致推進 事業補助金 (山口県)
施設の規模	1351.51㎡



施設の概要

2014 (平成26) 年3月に閉校となった旧和田小学校を改修して、(株)ビジコムの本社機能の一部を分散し、店舗で商品の販売情報を記録し、集計結果を在庫管理やマーケティング材料として用いるPOS (Point Of Sales) システムの開発、販売を行うためのサテライトオフィスとして使用している。

廃校活用までの経緯

2014 (平成26) 年3月に閉校となった旧和田小学校は、1995 (平成7) 年度に整備した比較的新しい施設であり、周防大島町においては、まち・ひと・しごと創生総合戦略等に基づき、ケーブルテレビの光インフラを活用したICT企業誘致等、雇用の創出や人口増につながる有効活用を検討していた。そうしたところ県を通じて、東京に本社を置くICT関連企業である(株)ビジコムからアプローチがあり、県と共同して条件協議を行った結果、2016 (平成28) 年2月に町と会社との間で進出協定を締結し、同年7月にサテライトオフィスを開所した。



1F 平面図



2F 平面図

廃校活用のメリット・効果

自治体側のメリット・効果として、廃校施設の解体・撤去費用よりも活用に向けた改修費用に係る負担の方が安価であること、企業進出により廃校施設の全体的な活用を図ることができることともに、雇用の創出や人口増につながる事が挙げられる。

事業者側のメリット・効果として、施設の新設より既存施設の改修の方が安価であること、施設を町から企業に無償貸与しており公課費等の維持管理費を低減できることが挙げられる。

また、廃校をサテライトオフィスとして活用するに当たり、各教室が直線の廊下で連絡しており、事務室、企画開発室、テレビ会議室等の動線が良いなど大幅な改修を加える必要が無かった点もメリットだった。さらに、余剰教室を地域に交流ルームとして開放することにより、新たな交流拠点としての活用も期待される。

活用開始までの課題・苦労したこと

周防大島町と山口県とが共同して企業誘致活動を行うことで、進出希望企業のリサーチとマッチング、進出協定の締結や契約内容等の調整及び改修費用や雇用等に要する補助金活用を円滑に行うことができた。

また、民間企業による光回線網の導入見込みが立たない中、町独自で全町にケーブルテレビ網(光ケーブル)を敷設しており、島しょ部におけるサテライトオフィスと本社・顧客との高速通信網が確保できたことも企業進出につながったと考えられる。

周防大島町では、廃校の有効活用に関して別の先事例があったため、議会・地元等との調整、関係法令を含む対応(水道・消防・電気設備の改修、維持管理費の費用負担等)については、過去の事例も参考にしつつ進めることができた。

●跡地の活用事例について

新発田市教育支援センター車野校（新潟県新発田市）

社会

新潟県内増える不登校...子どもの「居場所」どうつくる？廃校活用で伸び伸びと 一方「校内センター」拡充の動きは人手不足が壁に、模索続く自治体

2024/4/11 16:40

新潟県内の小中学校で不登校の児童生徒が増加し、市町村が学校内外に子どもの居場所を設ける試みが続く。主な受け皿は市町村が運営する「教育支援センター」で、中には廃校を活用して子どもが伸び伸びと過ごせる環境づくりを進めるケースがある。一方、学校内での受け入れ態勢の強化は、教員などの人手不足という壁に突き当たっている。（報道部・佐藤雄太）



指導員に勉強を教わったり、読書をしったりする子どもたち＝新発田市の市教育支援センター車野校

3月中旬、新発田市の「教育支援センター車野校」では、小中学生5人が問題集を解いたり、読書にふけったりしていた。「ここは自分を認めてくれる。居場所がある」。市内の中学に在籍する女子生徒は、そう話すとほほ笑んだ。

センターでは教員OBや教員免許を持つ人らがスタッフとなり、教育相談や学習支援を行う。県内には2023年9月現在、24市町村に計41カ所ある。

新発田市の車野校は2022年11月、廃校となった車野小に移転、設置された。小学4年～中学3年の約30人が登録し、それぞれのペースで通う。センターにきた日は在籍する学校での出席扱いとなり、通ううちに学校に戻る子もいる。

車野校の特徴は郊外の独立した建物にあり、地域住民との交流も多いことだ。移転前の公共施設にはスポーツやイベントで多くの人が集まり、大人の目を気にして子どもたちが落ち着かなかった。現在は通う子たちが伸び伸び過ごし、農業体験なども楽しんでいるという。

「教員は指導、評価するという態度で接してしまいがち。地域の人々は自由に向き合ってくれるので、子どもたちが元気になる」と工藤ひとし教育長（70）は語る。

一方、登校はできても教室に入れないといった子の受け皿にしようと、「校内教育支援センター」を拡充する動きもある。

授業のない教員や校長、ボランティアらが子どもに対応する校内センター。県内の設置率（2023年12月時点）は中学校で85%だが、小学校は35%にとどまる。小学校では特に、教員の空き時間が少ないことが背景にある。

県教育委員会は2024年度当初予算で、不登校対策に2023年度の約3倍となる約9950万円を盛った。主に、教員の事務作業を手助けするスクールサポートスタッフの増員などに充て、教員が子どもを支援する時間を確保したい考えた。

県教委生徒指導課は「教員不足の直接の解消にはならないが、できるだけ現場をフォローしたい」としている。

●跡地の活用事例について

適応指導教室「ハートフルスクール」

自治体	敦賀市
旧学校名	赤崎小学校(令和3年3月廃校)
運営	敦賀市(転用)
維持管理	敦賀市
初期投資	移転関係経費 410 万円 施設整備 (修繕、電話設備新設、樹木伐採など) 備品・消耗品購入
その他	指定避難所に指定

ハートフル・スクール ご案内

ハートフル・スクールは、不登校の小・中学生を対象とした、教育機会の確保のための適応指導教室としての機能と、児童・生徒や保護者を対象とした教育相談の機能を兼ね備えた施設です。

開いている日は…

毎週月曜日～金曜日
休日・祝日・学校の休業日は休み



適応指導教室としての機能

敦賀市内の小・中学校に在籍する子どもたちに、次のような支援をしています。

- ☐ 安心できる居場所づくり
- ☐ 学習や進路などの支援や助言
- ☐ 自立への支援
- ☐ 再登校に向けての学校や外部機関との連携

【学習室】



1日の流れは…

8:00～	受け入れ	
	小学生は保護者送迎が原則です 中学生は自転車での通室(許可申請)を認めています	
	＜基本時間割＞ 学習タイム(45分間×2時間)	通室時間や帰宅時間に合わせて、 自分で今日の計画を立てて、学 習や活動を進めます
	活動タイム(45分間)	
11:40～11:45	そうじタイム	活動した場所をきれいにします
11:50～11:55	ラジオ体操	思いっきり身体を動かします
11:55～12:00	帰りの会(午前中で帰宅する人)	今日一日をふり返ります
午前中で終了する人は帰宅します		
12:00～13:00	ランチタイム・昼休み	
13:00～13:45	学習タイム(45分間)	自分で立てた計画で学習や活動 を進めます
14:50～14:20	活動タイム(45分間)	
14:25～14:30	帰りの会	今日一日をふり返ります

その他にも…

野菜作り(ミニトマト・さつまいも・おくら・
落花生・じゃがいも・ししとう等)、調理実習、手芸・工作、
金魚やメダカの飼育、各種スポーツ、パズル、校外学習も実施
しています。



旧施設の老朽化、また当小学校は社会体育施設・
避難所・選挙会場として利用されており、管理者
の必要性が求められていた。地元三区長の賛同も
得られ、令和5年10月に移転。これにより学習環
境が向上し、体育や実験などの活動を充実させる
ことが可能となった。通室の児童・生徒は野菜作
りや調理実習、生き物の飼育、各種スポーツなど
にも取り組む。また、児童・生徒と保護者を対象
に、カウンセラーらによる教育相談も実施してい
る。

令和6年10月からは、市文化振興室の分室とし
ても利用。

通室するかどうか迷われている方は…

相談・見学・体験に応じています。直接連絡するか、学校を通して連絡してください。
正式な通室は、見学や体験をした後で、学校を通して手続きしていただきます。

教育相談としての機能…

市内小中学校の児童・生徒および保護者を対象に、専任カウンセラーと相談員
による教育相談を行っています。
家庭生活、子育て、学校生活、不登校、いじめ等でお悩みの方、是非ともご活
用ください。

専任カウンセラーによる教育相談

- 相談日 基本 毎週木曜日(予定日や変更は随時ホームページで更新しています)
- 相談時間 次のA～Eの希望する時間・1枠45分間
A 10:00～10:45
B 11:00～11:45
C 13:30～14:15
D 14:30～15:15
E 15:30～16:15
- 申込方法 敦賀市ハートフル・スクール
電話 0770-22-7072
申込受付 休日を除く月曜日～金曜日
8:45～16:45
希望者本人が直接、または学校を通して



【相談室】

相談員による教育相談

- 相談日 月曜日～金曜日 *休日・祝日を除く
- 相談時間 2名の相談員が月・木・金曜日と火・水・木曜日を担当
(電話の場合) 9:00～16:00
はーと・ほっとダイヤルに
0120-96-8104(フリーダイヤル)
(面談の場合) 9:30～15:30
- 申込方法 面談の場合は、専任カウンセラーによる教育相談申込方法に同じ

一人で悩まないで相談しよう

はーと・ほっとダイヤル
0120-96-8104
(月～金 9:00～16:00)

時間外はこちらをご利用ください。

福井県「24時間電話相談」
0776-51-0511
全国統一「24時間子供SOSダイヤル」
0120-0-78310

お気軽にお問い合わせください

敦賀市ハートフル・スクール
〒914-0805
福井県敦賀市錦物師町 12-32
☎0770-22-7072
E-mail hert@edu.ton21.ne.jp
HP <http://edu.ton21.ne.jp/hert>

●跡地の活用事例について

全天候型遊戯施設「あそぼっさ」

自治体	あわら市
旧学校名	吉崎小学校(平成28年3月休校)
運営	(一社)蓮如の里 吉崎(無償貸与)
維持管理	あわら市 ※周辺除草は一社に委託(年二回)
初期投資	クラウドファンディング 100 万円 市補助金 80 万円/年 施設整備 (遊具の整備、子供用トイレ改修など)
その他	指定避難所に指定

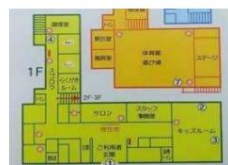
休校から6年経過した令和4年より、卒業生ら地域住民で結成された「(一社)蓮如の里 吉崎」が全天候型遊戯施設を整備し運営をしている。

初年度の利用者は約6800人、口コミで徐々に広がり令和5年度の利用者は約9700人。年間目標の1万人を目指す。

旧幼稚園だった場所は未就園児エリアとして活用している。そのほか、図書室やランチルームの利用も可能。

The image shows a Facebook page for 'あそぼっさ by 蓮如の里 吉崎'. The page features a cover photo of the facility with the text '休校になった小学校を子どもたちの遊び場に' (Turning the closed school into a play area for children). The page includes a '自己紹介' (Self-introduction) section, a '投稿' (Posts) section with a calendar for 2024, and a '写真' (Photos) section. The calendar shows various activities and events throughout the year, with a note about the facility's hours and admission fees.

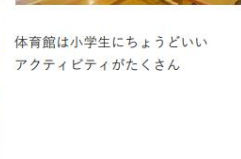
あそぼっさ 2022年4月16日～



施設概要図



旧幼稚園だった場所は未就園児エリア



体育館は小学生にちょうどいいアクティビティがたくさん

◇一般開館日：土曜・日曜・祝日

◇開館時間：10時から15時 ※平日は団体貸し切りも可能

◇入場料(小学生以下有料)

・子ども1人目：300円

・子ども2人目：300円(2人目が0歳児の場合無料)

・子ども3人目：無料

※ひとり親家庭を証明する受給者証や医療証の提示で200円割引

●跡地の活用事例について

なみまち CAFE、なみまちラウンジ

自治体	あわら市
旧学校名	波松小学校(平成28年3月休校)
運営	(一社)なみまち(無償貸与)
維持管理	あわら市
初期投資	市補助金 190 万円(初期投資) 市補助金 80 万円/年(二年目より)
その他	指定避難所に指定

令和元年7月に地域住民有志による、(一社)なみまち倶楽部が、なみまちCAFEをオープンした。波松小学校に併設されていた幼稚園の教室をリノベーションし、校長室のソファ、図工室の木製テーブルなどを再利用している。なみまちCAFEの隣にはなみまちラウンジが併設されており、スピーカーなど音楽室の音響機材を再利用している。また、旧小学校校舎では、塩づくり体験ができる。



なみまちCAFE

波松小学校に併設されていた幼稚園を改装してできたカフェです。ととところろに小学校や幼稚園の名残のあるアイテムを置いています。波松で収穫されるフルーツや野菜をふんだんに使って「ここでしか食べられない」おいしくて、クセになるお料理とデザートを提供しています。

ふんわり、ゆったり、潮風が気持ちいいカフェに遊びに来てください。



なみまちCAFE 営業案内

住所	〒910-4277 福井県あわら市波松25-1 旧波松小学校1F
電話	090-1633-7302 (CAFE専用)
営業時間	土・日・祝日 *お盆や年末年始は変更あり(最新情報はSNSをご確認ください！) ランチタイム 11:30~14:30 カフェタイム 11:00~16:00 (15:30ラストオーダー)
定休日	月・火・水・木・金(祝日は営業)
お支払い	現金、カードともにお使いいただけます。 クレジットカード (VISA、Mastercard、JCB、American Express、Diners Club、Discover) QR決済 (PayPay、LINE Pay、d払い、微信支付、ALIPAY)
駐車場	あり(無料)
その他	フリーWi-Fiあり。 団体予約、グループ予約ご希望の方はお問い合わせください。 教室、講座、発表として利用したい方はお問い合わせください。

お食事メニュー 11:30~14:30

ドリンクセット コーヒー・紅茶・オレンジジュース・グレープジュース・カルピスが100円引き
お召し上がり、お持ち帰り共に税込価格(同額)です。



なみまちラウンジ

なみまちCAFEの隣に「なみまちラウンジ」があります。ギャラリー展示コーナー、レコードやカセットを持ち込んで聴くことができる「音の待合室」、誰もが一度は聞きたくなる、心おきなく演奏できる本学もあります。ハンモックでお昼寝も気持ちいですよ。



前はお花見ができる空間です。外の桜の樹を眺められる一番いい場所に、元校長室のソファが置かれています。

●跡地の活用事例について

宿泊型体験施設「竹田農山村交流センターちくちくぼんぼん」

自治体	坂井市
旧学校名	竹田小学校(平成22年3月廃校)
運営	(一社)竹田文化共栄会(指定管理)
維持管理	(一社)竹田文化共栄会 ※30万円以上の修繕は市
初期投資	4億3000万円(改修費用、設備費等) (農山漁村振興交付金1億6000万円) (地域脱炭素推進交付金2800万円)
その他	指定避難所に指定

旧竹田小学校をリノベーションし、体験型宿泊施設を開設。平成28年4月に竹田農山村交流センターちくちくぼんぼんをオープンした。運営は(一社)竹田文化共栄会が行っている。

宿泊クラフト、里山歴史文化体験、冒険、里山暮らし食育、自然教育等の40種類以上のプログラムが体験できる。

昔の小学校を活用した体験型宿泊施設『ちくちくぼんぼん』

人と自然、人と文化、大人と子ども、そして子ども同士がいろんな体験を通してつながっていく。新しいつながりが、新しい自分が、きっと『ちくちくぼんぼん』で見つかります。

1F 体験ホール、交流ホール、ラウンジ、体育館、シャワー室

2F 多目的ルーム(2部屋)、TOYルーム、食堂、図書コーナー、木工ルーム

3F 宿泊室(洋室4部屋、和室4部屋、大和室1部屋)

家族から団体まで、様々な用途でご利用頂けます。お気軽にお問合せください。

企業研修

- 常時接続可能なフリーWi-Fi完備
- プロジェクター4台(備え付け3台、可動式1台)
- 最大100人利用可能な食堂は研修場所としても利用可(プロジェクターあり)
- 50人利用可能な交流ホール(プロジェクターあり)
- グループ研修に適した多目的ルーム2部屋
- チームビルディングに適した体験プログラム
- 屋外でも使用可能な音響設備

「里山で学びを深める」スポーツ合宿

- ミニバスケットコート2面
- バドミントンコート3面
- バレーボールコート2面
- 軟式テニスコート室内1面
- 1周200mのトラックがあるグラウンド
- 少年サッカーは11人制フィールド可能
- グラウンドを利用した各種自転車競技
- テント設置やキャンプファイヤーなどが可能
- 定員96名宿泊可能

・宿泊室(洋室)

洋室は、全4室をご用意しております。2人部屋、3人部屋、5人部屋の3タイプがございます。全室ベッドを完備し、落ち着いた過ごせる空間となっております。個人旅行から家族旅行まで、お客様のニーズにお応えいたします。お部屋の窓から見える山あいの素晴らしい景色をご堪能ください。



宿泊室(洋室タイプ) 1人1泊の宿泊料金	
一般(高校生以上)	5,000円 (6,000円)
小・中学生	4,000円 (4,800円)
未就学児	2,000円 (2,400円)

※括弧内の料金は、土曜日と祝日前日の価格です。

ちくちくぼんぼん体験プログラム

大自然で作る&遊ぶ

「冒険ダムカヤック」
【内容】カヤックに乗ってダム湖を冒険しよう！
【対象】小学生～【時間】1h【体験料】¥6,000
【協力】竹田農山村交流センター

「木の空中体験！ロープアークのぼりツリーイング」
【内容】ロープを使って安全に木のぼり、木の気分で空中散歩を楽しめます。9歳以上
【対象】小学生～【時間】2h【体験料】¥4,800
【協力】NPO法人森林のつなび(こども自然教室運営)

「川遊び&生き物観察」
【内容】川遊びをしながら、川の生き物を観察してみよう！(シャワー別途料金)
【対象】小学生～【時間】1h【体験料】¥800

「思い出フォトフレーム作り」
【内容】思い出の写真をオリジナルのフォトフレーム作り。
【対象】小学生～【時間】1h【体験料】¥1,500

「サントアートキャンドル作り」
【内容】アロマを焚くサントアートのキャンドル作り！
【対象】小学生～【時間】2h【体験料】¥2,000

「お手軽ネームプレート作り」
【内容】可愛く絵を描いてオリジナルネームプレート作り。
【対象】幼児～【時間】1h【体験料】¥500

「木の雑貨作り」
【内容】キーホルダーやオリジナルのアクセサリー作り。
【対象】幼児～【時間】1h【体験料】¥800

「どんぐり遊園地」
【内容】遊園地でサングラス、歯当てで遊びを楽しもう！
【対象】幼児～【時間】1h【体験料】¥500
※サングラス貸出(1回)¥2,000/シャワー別途料金

春夏秋冬、季節に応じて竹田の自然を満喫できるプログラムや、天候を問わず楽しめるクラフトプログラムもございます。(各プログラムは10日前までにご予約をお願いします。)

「里山で学ぶ」

「講師と行く 木の動物ツアー」
【内容】野生動物のクイズで勉強しながら探検しよう！
【対象】小学生～【時間】2.5h【体験料】¥800
【協力】(一社)竹田文化共栄会(自然教室)

「サマーナイトウォーク」
【内容】虫探しや星空観察など、夜ならではの体験！
【対象】小学生～【時間】1h【体験料】¥200

「消しゴムスタンプバッグ作り」
【内容】好きなだけスタンプをポンポンでMyバッグを作ろう！
【対象】幼児～【時間】1h【体験料】¥1,500

「トキトキお宝探し」
【内容】地図とヒントを頼りにお宝探しにチャレンジ！
【対象】小学生～【時間】1h【体験料】¥500

「おいしいクッキング」
【内容】もちもちおまんこ(おまんこ)や冷たいアイス(アイス)を作ります。
【対象】小学生～【時間】1h【体験料】¥500

「もちもちわらび餅」
【内容】もちもちおまんこ(おまんこ)や冷たいアイス(アイス)を作ります。
【対象】小学生～【時間】1h【体験料】¥500

「釜焼きピザ作り」
【内容】本格的なピザでオリジナルトッピングを楽しもう！
【対象】幼児～【時間】2h【体験料】¥1,200

「竹田名物おそば作り」
【内容】竹田の伝統料理を体験！※5人前
【対象】小学生～【時間】2h【体験料】¥2,500

「羽釜で炊き込みご飯」
【内容】日本伝統の炊き込みご飯を体験！※6人前
【対象】小学生～【時間】2h【体験料】¥2,500(7～10人前)

「魚つかみクッキング」
【内容】魚を捕まえておまんこ(おまんこ)にチャレンジ！
【対象】小学生～【時間】1h【体験料】¥1,000

「べったんお餅つき」
【内容】杵と臼でお餅つき！おまんこ(おまんこ)や冷たいアイス(アイス)を作ります。
【対象】小学生～【時間】1h【体験料】¥1,000(5人前)

●跡地の活用事例について

池田農村合宿交流施設「農村 de 合宿キャンプセンター」

自治体	池田町
旧学校名	池田第三小学校(平成23年3月廃校)
運営	株式会社まちUPいけだ(第三セクター)
維持管理	池田町
初期投資	8千万円(改修費用、設備費等)
その他	指定避難所に指定

旧池田第三小学校を町がリノベーションし、合宿交流施設として開設。平成28年6月から株式会社まちUPいけだ(第三セクター)が管理運営を行い農村deキャンプセンターがオープンした。スポーツ合宿、音楽合宿、企業研修など多様な利用が可能。

池田町の農村や農業、自然や伝統・文化などを通じて、学び、体感できる学習プログラムもある。

＼農村がキャンパス！風土が教科書！／
農村de合宿キャンプセンター
 AGRICULTURAL COMMUNITY TRAINING CAMP CENTER
 ～福井県池田町～

TOP 新着 施設紹介 利用料金 プラン オプション アクセス
 ご予約・お問い合わせ



自然の中のトレーニング。
 合宿で絆を深める

SPORTS×TRAINING CAMP

スポーツde合宿



詳しくはこちらから

開放感ある空間で
 奏でる音色が響き渡る

MUSIC×TRAINING CAMP

音楽de合宿



詳しくはこちらから

日常から離れた
 里山で学ぶ

FARM VILLAGE×TRAINING CAMP

農村de研修



詳しくはこちらから

＼農村がキャンパス！風土が教科書！／
農村de合宿キャンプセンター
 AGRICULTURAL COMMUNITY TRAINING CAMP CENTER ～福井県池田町～

TEL 0778-44-6181
 FAX 0778-44-6182
 〒910-2535 福井県今立郡池田町菅生23-42
 E-mail: nouson-camp@e-ikedai.jp

■宿泊料金 (消費税込み)

合宿宿泊 10名様以上 (お1人様)	区分	1泊2食
	小学生以下	6,500円
	中学生	7,200円
	一般(高校生以上)	7,800円
一般宿泊 (1部屋)	部屋タイプ	1泊
	洋室(4人部屋)	18,000円 ※食事なし
	和室(3人部屋)	

※令和6年6月1日より1泊2食付きの料金が改正となり、上記料金となります。

●跡地の活用事例について

漁村体験施設「みさきち」

自治体	若狭町
旧学校名	岬小学校、三方中学校岬分校 (平成28年3月廃校)
運営	若狭町(開設) 学校法人 金井学園(指定管理・運用)
維持管理	学校法人 金井学園 ※中規模以上の修繕は町と協議
初期投資	1億119万2千円 (うち農山漁村振興交付金3815万円) 教室などのリノベーション費用 指定管理二期目より町からの補助あり 町補助金10万円/月+利用者500円/人
その他	指定避難所に指定

廃校から三ヶ月後の、平成29年9月に若狭町と金井学園、西浦地域づくり協議会の三者で西浦地区交流促進協定を締結し、廃校再生プロジェクトがスタートした。同年、校舎等の改修を行い、翌年4月に「遊んで・学んで・泊まれる施設」、漁村体験施設みさきちを開設。指定管理者、学校法人 金井学園による施設運営を行っている。

毎年、高校の部活動合宿やスポーツ少年団、子ども会の合宿などに利用されている。また、年一回、福井工大生と地元民の交流を目的としたイベントの開催など地域間交流の促進に繋がっている。



若狭町みさき漁村体験施設みさきち
☎ 0776-29-2435
〒919-1452 福井県三方上中郡若狭町神子14-4



種別 体験、宿泊

トップ



旧岬小中学校を漁村体験施設としてリノベーションし、2018年に若狭町みさき漁村体験施設みさきちがオープンしました。開設は若狭町、運営は学校法人金井学園が行っています。みさき漁村体験施設では、大敷網漁体験(宿泊者限定)、船釣り体験(宿泊者限定)、魚さばき体験、シーカヤック体験ツアー等の若狭町の豊かな自然を活かした体験プログラムを楽しむことができます。

忘れられない体験ができる



魚さばき体験



SUP(サップ)体験

「遊んで・学んで・泊まれる体験施設」を標榜する「みさきち」には、さまざまな体験プログラムがあります。たとえば、地元の若手漁師が丁寧に指導してくれる魚さばき体験や、SUP(=スタンドアップパドル)、シーカヤック、シュノーケリングといった水上アクティビティ体験。波音を聞き、星空を見上げながらグラウンドでキャンプするのもおすすめです。



キャンプ体験



福井工大大学生の合宿風景

元教室を畳敷きにした宿泊室は6つあり、合計50名まで宿泊できます。このため学校のクラブやセミナー、スポーツ少年団、子ども会の合宿など、大人数の利用が多いのが特徴です。映画のロケ隊が滞在したこともあるとか。新型コロナウイルス感染症の影響が出る前のサマーシーズンは、平日を含め毎日数十人規模の予約で埋まっていたそうです。利用者は福井県内に限らず、岐阜、大阪、京都、石川など他県からも来訪。利用人数(延べ人数)は2018年2,739人、2019年2,724人に上りました。

▲跡地利用の不成功事例

■旧野津高校(大分県臼杵市)

臼杵市の旧野津高校(平成26年3月閉校)の跡地で、複合施設を運営していた市内の農業法人が開業から半年で事業停止、経営破たんした。この跡地活用事業には市が校舎の改修などにおよそ4億円を投じていた。

⇒(その後)跡地の再利用について市民が参加する会議で話し合い。令和7年4月、臼杵市多世代交流館としてリスタート。

■旧三土中学校(兵庫県作用町)

佐用町と産業用制御機器メーカーである IDEC 株式会社が共同で設立した有限責任事業組合が平成 29 年 1 月より、ビニルハウス等を建設し、次世代農業モデルプラントとしてブランドトマトの栽培を行ってきた。産官学金連携のモデル事業としても注目されていましたが、収支状況の改善が難しく、事業継続にあたっては更なる施設・設備の大規模修繕が必要となることなどから、令和 6 年 3 月 31 日をもって事業を一時休止しました。

⇒(その後)施設の有効活用に向けたサウンディング型市場調査(民間事業者との対話による事業可能性調査)が実施されています。

■農村 de 合宿キャンプセンター(池田町)

第三セクター事業者が管理運営を行っていたが、事務員の退職、多大な維持管理費を要することを理由に宿泊客の受け入れの停止を決定した。

(参考)初期投資費用 80,000 千円
ランニングコスト(R6 実績) 14,600 千円

朝刊 2025/06/18 2面

農村合宿センターの
宿泊受け入れ停止へ
池田町 17日、定例会を
開会した。会期は
20日までの4日間。新庁舎・
複合施設の建設事業費用や新
電力会社「まちUPエナジー」
への出資金を盛り込んだ本年
度一般会計6月補正予算案
(4億7217万円)を含む
9議案が提案され、2024
年度一般会計繰越明許費繰越
計算書など4件が報告され
た。
3人が一般質問した。同町
営生の宿泊施設「農村de合
宿キャンプセンター」につい
て、理事者は9月から宿泊客
の受け入れを停止すると明ら
かにした。「事務を担う職員
の退職に伴い、地域主体の運
用体制が取れなくなる。公共
施設の維持管理を考える中で
多くの費用を要する現状の運
営は課題がある」と説明し、
新たな運用体制を検討する
とした。同センターは16年、旧
池田第三小の廃校舎を町が改
修してオープンした。宇野邦
弘議員への答弁。
▽質問者 岡村祐、宇野邦
弘、清水龍司 (渡辺亮)